

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中の一つの家として、やすらぎと安心の楽しい生活を私たちと一緒にしましょう」という理念をつくりあげている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフは、周知徹底しており、日々の申し送りや、ミーティングの折には、理念の下に、業務が遂行されているか確認している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	苑の行事には、地域の皆様に声をかけ出席してもらっている。ご家族の皆様とも交流ができています。	○ 今後は、苑だよりを地域の皆様にも読んでいただきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	開苑時よりのスタッフがが多く、地域の皆様とは、顔馴染みになっている。入居者との散歩時や通勤の途中で気軽に声をかけていただいている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会に出席したり、苑での行事には子供クラブ・老人会の皆様に参加してもらっている。(クリスマス会・敬老会・お楽しみ会)	○ 地域活動(清掃等)には、積極的に参加をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	苑での「お楽しみ会」には、地域の老人会に声かけ参加してもらっている。近隣への散歩時には、世間話に花が咲く事もある。	○	今後も老人会の皆様との交流を続けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことでケアの質の向上につながり、外部評価の改善点には、ミーティングの折に改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催、期間中の行事や出来事・入居者の状態・スタッフの活動等報告している。地域の人に、グループホームのことや、認知症のことを理解してもらい、要望等についても意見の交換が出来ている。	○	全家族への参加を検討している。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には出席をお願いしている。町の文化祭等には席の確保をしていただいたり、車の駐車にも心配りをしていただいている。	○	サービスの質の向上には、繋げたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、必要とされる方はいらっしゃらないが、今後必要とされる方には、対応出来る様学ぶ機会を持ちたい。	○	今後は、研修会には、積極的に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての報道には、ミーティング等にて問題提起をし、防止に努めている。	○	学ぶ機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が説明を行い、理解・納得をいただいているが、契約時の不安・疑問点にも十分な説明を行っている。</p>	○	契約時には十分な説明を心掛けたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時には、出来る限りご様子等を伝え、要望・不満等をお聞きしている。要望は、全スタッフ共有し改善に努めている。</p>	○	自分の気持ちを表出できない方には、日々の関わりの中での気づきを大切にしていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には、必ず個々にあわせた報告を行っている。県外の家族には、必要に応じて電話で報告している。</p>	○	毎日の暮らしぶりや行事等の写真を掲示している。今後も続けたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置している。面会時には、ご家族の話し易い環境作りを心掛けている。意見や要望は、スタッフ全員に周知。</p>	○	忌憚のないことを望んでいるか。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝の申し送り時やミーティングの場所に於いて意見や提案を聞き反映させるようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状態に応じ(見守り強化や急な受診)十分な調整を行っている。</p>	○	グループホーム周辺よりのスタッフが多く、柔軟な対応が出来る。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>殆どのスタッフは、開設当初より勤務しており、離職時のダメージは考えられるが、全スタッフ馴染みの関わりが、出来る様に努めている。</p>	○	入居者とスタッフの、より良い関係が出来る様、日々の関わりを大切にしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後は、ミーティングの席にて、研修の報告を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や訪問等にて、ケアの参考になる事もあり、意見を交換し合い、スタッフへも申し送り等で伝えている。	○ 交流する機会を多くもてればと思っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスと感じる話を聴き、悩み事や打ち明けられる雰囲気・体制づくりを行っている。年に数回は外での懇親会を行っている。	○ 休憩室の設置を検討している。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や、仕事の内容が他のスタッフの模範となる事は、ミーティングや申し送り時に確実に伝えている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と一緒に見学に見られた際には、ご本人の言葉をお聴きする様に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を決定されるまでには、十分に現在の状況やご家族の求められている事を、傾聴するように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居が望ましいか、又は在宅での他のサービスの利用が望ましいかは、何度か訪問していただきながら必要としている支援の見極めを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族より生活歴やライフスタイルの情報をいただき、興味をもたれる事から話し掛け、徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人のライフスタイルを尊重し、食事の用意や家事手伝い・炊作り等も楽しみながら、又教えを仰ぐ場面も作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来苑時には、気軽にお話ができる様、希望や意見が出しやすいようゆっくと話を聴いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問出来る雰囲気を作り、お部屋でも寛いでもらっている。入居時に聴けなかった事も徐々に打ち解けられ話される事もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事には多くの皆様に参加してもらっている。また法事等親類が集う会には外泊・外出を勧めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	読書の好きな人、テレビが大好きな人、ぼんやりと一日を過ごしたい人、お互い支え合って生活が出来るよう環境作りを努めている。	○	意見の相違でトラブルが発生する事がないよう、スタッフは、遠くより見守りを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時にプレゼントした人形の洋服を着せ替えに訪問したり、誕生日には、今まで一緒に生活をされていた他の入居者と共に、お祝いに伺っている。	○	入居者と退去者との繋がりは保ちたい。(たまの面会で行っている。)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意見を出来る限り尊重し、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報提供や入居者が話をされる内容から生活歴等把握している。	○	生活歴からよりよい環境・暮らし方を見つけ、苑での生活に楽しみが出来るよう支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自宅での生活の延長として、今までの日課が大きく変わらないように配慮している。心身の状態を見ながら出来る事、得意分野を發揮してもらっている。	○	スタッフは、教えを仰ぐ場面をつくる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者からの希望は勿論、ご家族の意向を十分に尊重した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状を見ながら、ご家族とも十分に話し合い、新たな介護計画を作成している。	○	対応できない変化が生じた場合でも、本人が希望する事により近いプランを、作成できるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り時に問題点や意見を伝えている。日々の記録の中に介護計画を添付しており、いつでも内容の確認が出来る。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	玄関の段差を解消したり、部屋の手すりが必要な方へは、取付を行っている。遠方よりの面会者へは、同部屋にての宿泊も勧めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	苑の行事に地域の人たちが参加されたり、保育園児の訪問等もある。消防訓練等消防署の協力もある。又、希望で文化サークル(書道)に参加された事もある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状態に応じ(見守り強化や急な受診)十分な調整を行っている。状態を見ながら必要に応じて支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして参加してもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続としての通院は原則として、家族にお願いしている。緊急時の対応、協力医療機関の確保は出来ており、スタッフに看護師がおり迅速に出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	症状に応じながら専門医への受診を主治医からも勧めてもらっている。受診の際は、スタッフが同行し生活状況等専門医に伝えている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療看護体制をとっており看護スタッフは入居者個別のマニュアルを作成している。毎朝のバイタルチェックを表にし、必要に応じて主治医にも提出している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、情報提供を行っている。家族のみに情報を伝えられない為、家族にも情報交換を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にターミナルケアの指針・重度化した場合における対応に関する指針を本人・家族に説明し、同意書をいただいている。	○	今後も病状に変化が生じたときは、速やかに家族・主治医に連絡を行う。スタッフ全員で方針を共有する。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最後まで住み慣れた苑で生活が出来るよう看護・介護のスタッフと検討を行っている。	○	重度化の対応やターミナルケアを望まれる家族には、その都度話し合いを行いながら、出来る限り家族と一緒に取り組んでいきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	特老等に移られる方には、苑での生活を見にきてもらったりして、ケア関係者間で十分な情報交換は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳の厳守をモットーとして、冗談の中にも品位のある言葉かけや対応を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝一番に新聞を読みたい人・一番風呂が好きな人・いつも何か仕事をして体を動かしたい人等、本人の思いや希望が表せるようスタッフは、寄り添いながら関るよう努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかにあるものの、その日の体調に配慮しながら、一人一人のペースで過ごしてもらっている。	○ 今後ものんびりとした一日を過ごせるように関わっていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人一人の個性を大切に支援している。朝の更衣時には、スタッフと一緒に選んだり、行事の折にはお化粧したり、マニキュアで気分転換を図ってもらっている。最近は、美容師の訪問があり、苑でカット・パーマをされている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物には、可能な限り同行してもらい、品定めやカートを押してもらったりしている。調理の好きな人には、スタッフと一緒に食材の切り込みをもらったり、盛り付け・後片付け等、一時中断されていた台所の仕事も思い出され生き生きとされている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の身体の状態に配慮しながら日常的に楽しめるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、気持ち良く排泄できるようトイレへの誘導を行っている。夜間は、部屋にポータブルトイレを用意している人もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴をしたい方、一番風呂や終い湯を好まれる方、一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中ぼんやりと過ごされたい方には、環境作りをして気持ち良く休息できる支援をしている。日中の活動への参加を促し、1日の生活リズムづくりも行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝食準備のお手伝い、モップを持ち自分の部屋から掃除をする人、ゴミ捨ての日の朝は、1輪車にて運ぶ人、毎朝カレンダーを捲る人、それぞれに役割があり生き生きとされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時には好きなものが買えるように、手渡しを行っていた頃もあったが、現在は一人を除いては、スタッフが預っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に配慮しながら戸外への散歩やドライブに出かけている。四季折々の風景に気分転換が出来る。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年は、大型バスで家族旅行をした。毎年夏は、清流・秋は紅葉見学と、お弁当を持って行ったり、食堂での昼食などの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人からの電話はよくかかり、子機を使用し居室にてゆっくりと会話を楽しんでもらっている。また、希望があれば家族へ電話をすることもある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠方からの訪問の際は、入居者と同室の就寝と食事を一緒にされる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない。スタッフは、正しく十分に理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵掛けはしていない。玄関のドアに鈴をつけているが、リビングから常に見守りが出来る。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者を見守りやすい場所にいるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や包丁は、事務室にて保管している。危険を防ぐ取り組みは必要に応じて本人に説明を行い預っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を防ぐ為の取り組みは朝の申し送りやミーティングにスタッフ全員に徹底させている。(「ヒヤリ・ハット」活用)	○	急変時の個別マニュアル・行方不明マニュアル・夜間緊急マニュアル・誤飲マニュアル等は、スタッフが見やすい場所に掲示している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、急変マニュアル等で応急手当を行い、夜間は緊急時連絡網に沿って速やかに連絡する様、日頃よりスタッフ全員に周知徹底を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火避難訓練を年に2回は行っている。夜間の想定も行っている。地区の消防団には、苑に来てもらったり、車椅子使用者や手引き歩行の入居者の居室を明確にした見取り図を渡ししている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	「ヒヤリ・ハット」報告にて日々の対応策を話し合っている。家族にも面会時等に説明をし理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや顔色・排泄・食事の状態にて異変を感じたら速やかに情報を共有し、大事に至らないよう対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はスタッフがを行い、手のひらにのせてあげたり、口に入れてあげたり、個々の状態に合わせて支援している。副作用の注意事項があるときは全スタッフにて共有できている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	午前中のおやつは牛乳を出している。食事のバランスと水分の摂取にも注意を払っている。個々の状態に応じ軽い体操や近隣への散歩等の運動を取り入れている。	○	これからも今までの取り組みを継続する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声をかけ、一人一人の口腔状態に応じて支援している。必要な人には、舌苔の除去も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスのある食事の提供を行っている。カロリー摂取に制限が有る方や糖分・塩分控え目の方にも柔軟な対応が来ている。水分量はチェック表にて確認している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い・うがいは、励行している。感染予防のマニュアルや、県や市からの文書は、全スタッフに周知徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用器具は、毎夕熱湯消毒、必要に応じてハイターも使用している。冷蔵庫は、定期的に食材の点検を行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、スロープと手すりを設置、車椅子対応のスロープも用意している。普通の家と同じように玄関の前には、四季折々開花する花や木々があり、家庭的な雰囲気づくりに配慮、工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには、写真を飾ったり、入居者の絵や書が貼ってあったり居心地よく過ごせる工夫をしている。陽射しの強い時間には、ブラインドを下ろし、テレビがよく観れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	冬場は、炬燵で暖をとったり、畳の上で足を伸ばしたり、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族の協力を得、使い慣れた調度品を用意していただくようお願いしている。ベッドや座椅子の位置は、本人と家族で相談しながら決められている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整は、外気温と大きな差がないようこまめに調整を行っている。空気乾燥時には、加湿器や洗面器に水を入れたりして対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング内では、4点杖の入居者や手引き歩行の入居者・歩行車を使用している人と、安全に移動が出来るよう、又必要以上に手を貸さないよう、見守りの姿勢も大切にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事・出来ない事、スタッフは、その人の身になって混乱や不安のない生活が出来るような支援を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには、四季折々の木々があり、部屋の窓から眺める景色も楽しめている。畑には、野菜や花を作ることで戸外の活動に活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

四季折々の風景の中で、ゆったりとした時間が流れ、家の中からは明るい笑い声が聴こえてくる。